

**授業概要**

これまで皆さんが中学校・高校で学んできた日本近世史（江戸時代）に関する知識と通説は、現在まで残されているさまざまな史料（資料）によって組み立てられているものです。この授業では、通説のもとになっている史料を紹介しながら、講義します。そして、史料から歴史像をイメージしていくおもしろさを味わってもらいたいと思います。

時には、専門的な史料を読んでいくことで、さらにより深く、立体的な歴史像を皆さんにもっていただけるような講義を行うつもりです。

なお、教職課程のうち、中学校社会・高校地歴の「教科に関する科目」の必修科目として充当されています。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション（授業の案内）
第 2 回	統一政権の成立過程Ⅰ（検地Ⅰ）
第 3 回	統一政権の成立過程Ⅱ（検地Ⅱ）
第 4 回	統一政権の成立過程Ⅲ（検地Ⅲ）
第 5 回	統一政権の成立過程Ⅲ（海賊船の扱いⅠ）
第 6 回	統一政権の成立過程Ⅲ（海賊船の扱いⅡ）
第 7 回	幕藩体制の成立と構造Ⅲ（復習）
第 8 回	中間試験（筆記）
第 9 回	幕藩体制の成立と構造Ⅰ（試験の復習・武家諸法度Ⅰ）
第 10 回	幕藩体制の成立と構造Ⅰ（武家諸法度Ⅱ）
第 11 回	幕藩体制の成立と構造Ⅱ（武家諸法度Ⅲ）
第 12 回	幕藩体制の展開Ⅰ（明和伝馬騒動Ⅰ）
第 13 回	幕藩体制の展開Ⅱ（明和伝馬騒動Ⅱ）
第 14 回	幕藩体制の動揺と近代への胎動Ⅰ（蒸気機関車の製作Ⅰ）
第 15 回	幕藩体制の動揺と近代への胎動Ⅱ（蒸気機関車の製作Ⅱ）
第 16 回	期末試験（筆記、定期試験期間中に実施）

**到達目標**

- 卒業論文でオリジナルな内容を書く基礎を身につけることができる。
- 自治体史などの活字史料を活用して自分で解釈と現代語訳ができる。

**履修上の注意**

- 平行して「日本史資料講読（古代・中世）」、「日本文学講読（古典Ⅰ・Ⅱ）」を履修するとよいでしょう。
- 授業で扱う史料は全て古文です。
- 毎回出席を確認します。遅刻は平常の受講の様子から減点します。

**予習・復習**

- 前回までのテキストを復習し、その都度、江戸時代の文書の読み方を身につけること。

**評価方法**

- 平常の受講の様子 40%、中間試験 20%、期末試験 40%の合計により評価します。
- 中間試験と期末試験では、授業で扱った史料に関する理解度を試します。

**テキスト**

- 歴史学研究会編『日本史史料 [3] 近世』（岩波書店、2006 年、ISBN4-00-026138-X）。必要な部分を印刷して配布します（購入の必要はありません）。
- 牧原成征編『日本史の現在4』（山川出版社、2024 年、ISBN978-4-634-59142-4）および浦和市立郷土資料館編『見沼 その歴史と文化』（さきたま出版会、2000 年、ISBN4-87891-124-7）も参考図書とします。